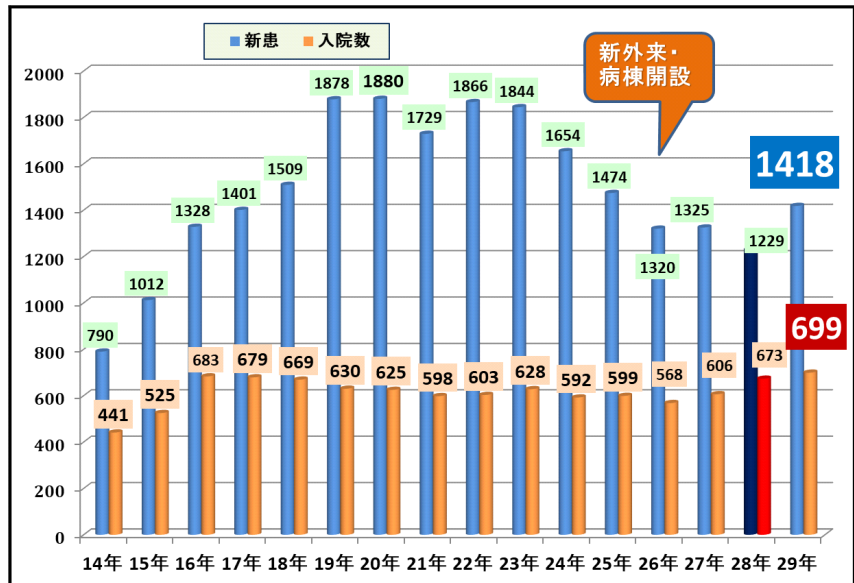


新患統計

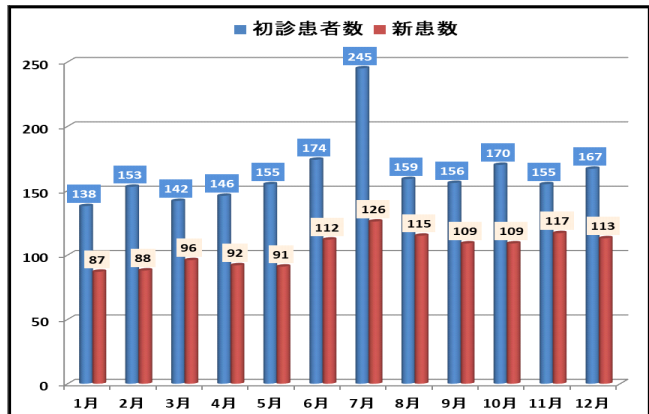
1 年度別新規患者数・入院者数

平成29年度の新規患者数は1418人で、昨年度の1229人で、平成27年の1325人、平成26年の1320人よりも増加している。これは、平成26年6月から新患は予約制している。平成26年5月からの新棟も既に3年が経過した。コンシェルジュの患者さん案内もスムーズになっている。入院者数は699人であった。病床数からは700人くらいが限度であろう。



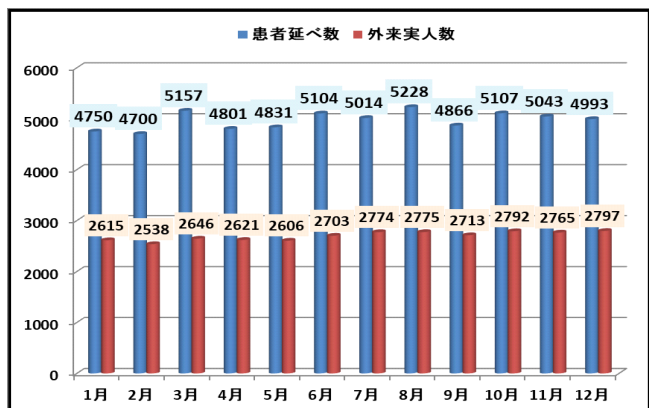
2 月別初診・新規患者数

初診患者が多いのは7月である。年金の現況届けのための受診が多いためである。平成31年からは7月に集中しなくなるそうである。1月、3月が少ない。新規患者数（当院に初めての受診者）は毎月100名前後。予診は研修医、心理士、精神保健福祉士、外来看護師がとっている。年金や障害支援区分などの書類関係はPSWの記載で医師の負担軽減に努めている。



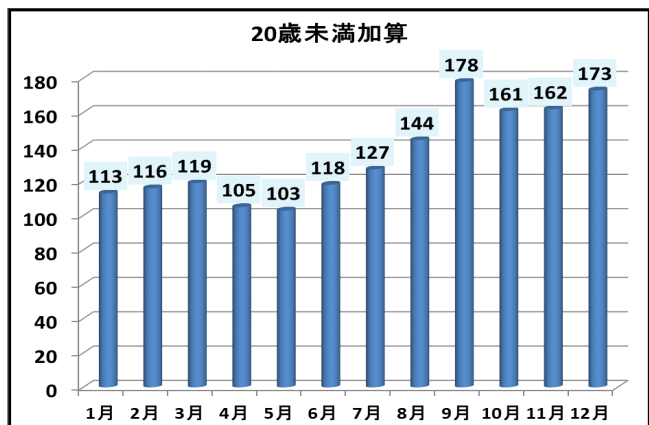
3 月別延患者数、実人数

延人数が多かったのは8月であるが、月別には大きな変化はない。実人数は、2695人である。平成28年度は2595人、平成26年度は2427人であったので、年々増えている。外来数の増加には外来が適切に出来る医師確保が必要である。診療の充実を図るためにも、医師の増員、非常勤の採用を検討したい。



4 20歳未満加算数

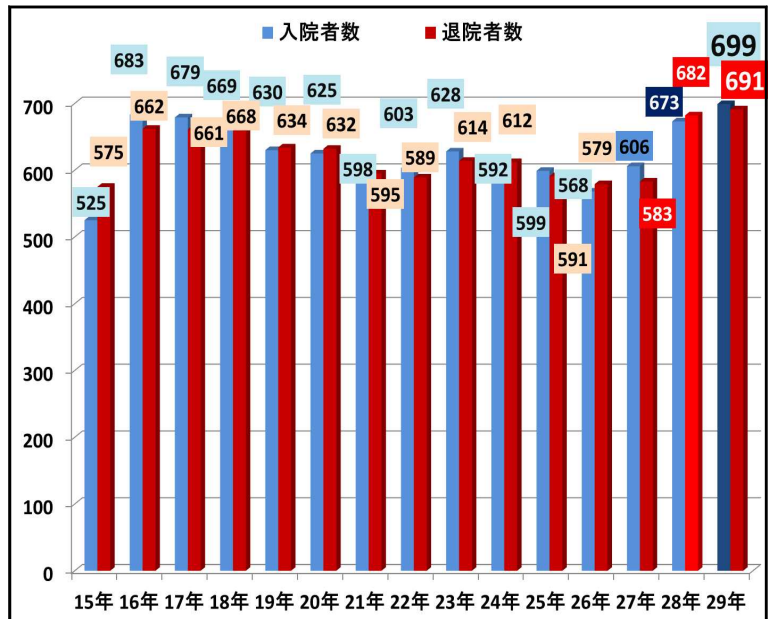
平成29年度は1619件、28年度は1321件、27年度の1117件、平成26年度の1181件よりも着実に増えている。当院では、平成27年11月からはじまった札幌市児童思春期のコンシェルジュ事業にも対応している。札幌市内では5ヶ所の医療機関が窓口となり、当院は札幌市北区の担当である。札幌市内でも五稜会病院は思春期を診ている病院として評判も良いように思う。



入院患者統計

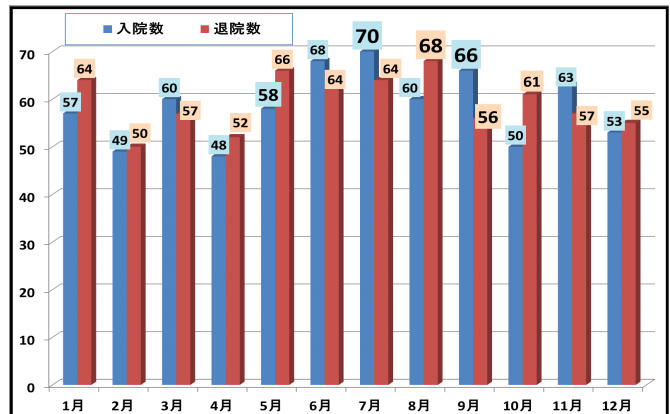
1 年度別入院者・退院者数

平成 11 年～ 14 年までは入院退院者数は 400 人台で推移していた。ストレスケア病棟がオープンした平成 15 年に 500 人を越えた。平成 16 年度の急性期病棟運用時から入院退院ともに 600 人台であった。平成 26 年の入院は 568 人と最も少なかったが、平成 27 年は 606 人、平成 28 年は 673 人、そして平成 29 年度は 699 人と大幅に増えた。それに伴い退院者数も 656 人であった。病床の適切な管理が望まれる。



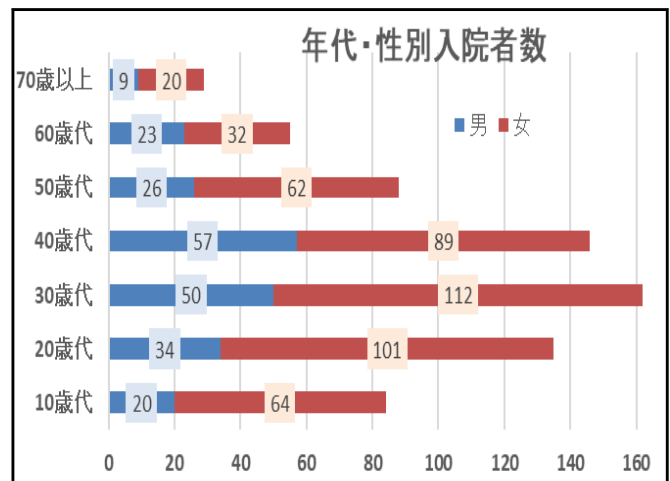
2 月別入院者・退院者数

月別の入院者で最も多いのは 6 月、7 月、9 月であった。7 月は 70 人と多かった。少ない月は、2 月、4 月、10 月である。年度による違いはないようである。退院は 5 月、6 月、7 月と多かった。退院は月末に集中することがあり、ある程度入院治療の方向性を決めて退院日を設定する必要がある。病院運営とのバランスを考慮する必要がある。



3 性別・年齢別入院者数

性別では前年同様に女性が多く 7 割近くを占める。入院者の年齢は 12 歳から 81 歳までで平均年齢は 39.0 歳と前々年の 40.2 歳に比べて若くなっている。年齢層は 20 代、30 代、40 代が多く、2 割を占める。10 代～ 30 代では女性の比率が高く 7 割である。特に 10 代は 8 割近くが女性である。10～ 40 歳代で 3/4 を占める。10 歳代は 84 人 (12.0%) と前年よりも 10 人増加。50 代、60 代合わせて 2 割、70 歳以上は 29 人 (4.1%)、80 歳以上は 2 人しか入院していない。

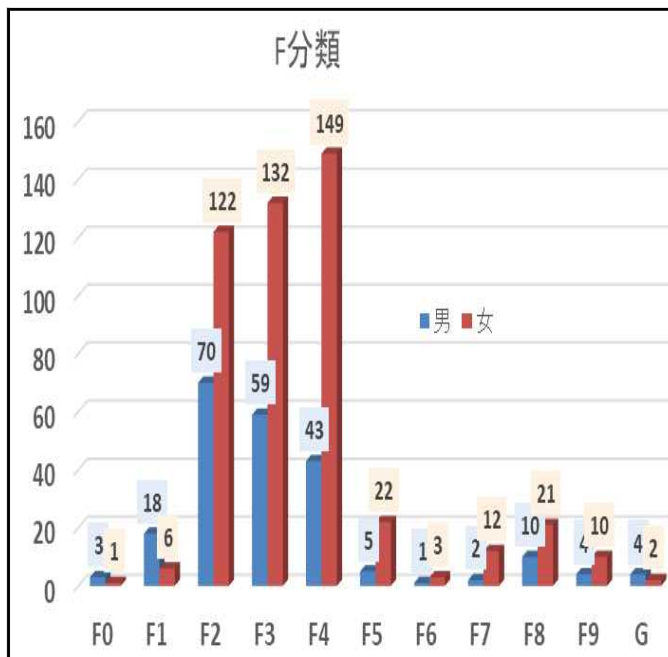


4 入院回数

初回入院が 312 人 (44.6%) である。2 回目が 121 人 (17.3%)、3 回目が 89 人 (12.7%) であった。5 回以上の入院者は 123 人 (17.6%)。新規入院 (精神科入院歴が 3 ヶ月以内でない) は 627 人 (89.7%) と、前々年の 92.4% よりも低下している。殆どは新規での入院であるが、再入院が多い。

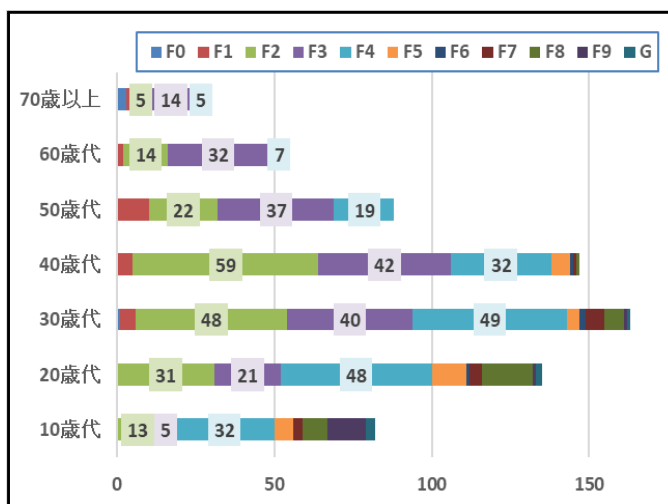
5 入院時診断

多いのはF2（統合失調症圏）、F3（気分障害）、F4（神経症圏）で、それぞれ192人（27.5%）、191人（27.3%）、192（27.5%）であった。この3つの疾患で3/4を占めている。F6（パーソナリティ障害）は4人（0.6%）と少なくなっている。以前はボーダーラインの患者さんが病棟をかき乱すこともあったが、減っている。最近多いのはF8（発達障害圏）が31人（4.4%）であるが、前年度よりは少ない。事前の外来での対応と、発達障害をベースにしても他の病名がついているかもしれない。F1（アルコール依存症）は24人（3.4%）と一定数はある。摂食障害等のF5（生理的障害）は27人（3.9%）であった。この中には、PSG検査入院も含まれる。



6 年代別診断分布

年代別の診断名の分布を示す。20歳代から50歳代にわたって、F2（統合失調症圏）、F3（気分障害）、F4（神経症圏）が多い。最も多いのは40歳代のF2で59人、次いで30歳代のF4の49人と30歳代F2の48人であった。10歳代はF7（精神遅滞）、F8（発達障害）、F9（注意欠如多動性障害）が多い。20歳代はF8（発達障害）が多い。50歳代以上は、F3（気分障害）が多い傾向にある。アルコール依存症は50歳代が最多である。



7 入院形態・入院病棟

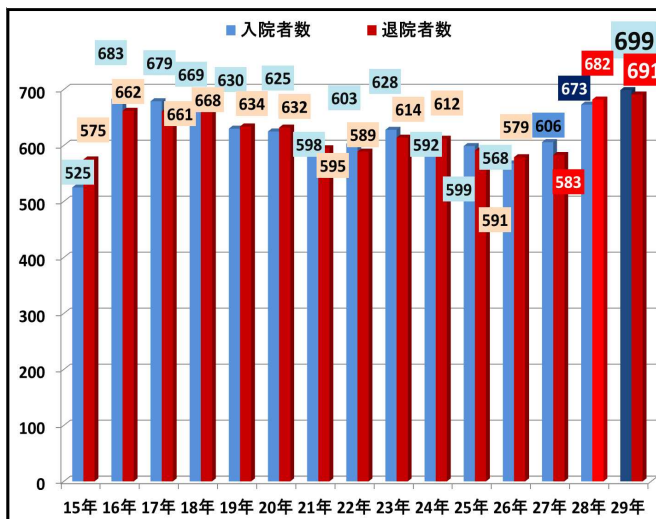
任意入院が524人（75.0%）の4分3で、医療保護入院は167人（23.9%）と4分1であった。精神科医療の基本は本人自らの希望での入院である。なるべくは本人の希望での入院が望ましい。応急入院は1名、措置入院はなかった。札幌市の措置入院の適応の厳しさが感じられる。鑑定入院は7人と前年と同じ。入院病棟は2病棟が339人（48.5%）、5病棟が298人（42.6%）であった。5病棟は2病棟からの受入れも多いので、新たな入院者はもっと多い。療養の1病棟、3病棟は、34人、28人を受け入れた。非新規の再入院によるものである。

	任意	医療保護	応急	鑑定	総計	%
1病棟療養(開放)	34				34	4.9%
2病棟急性期	170	161	1	7	339	48.5%
3病棟療養(閉鎖)	22	6			28	4.0%
5病棟ストレスケア・思春期	298				298	42.6%
総計	524	167	1	7	699	100.0%
%	75.0%	23.9%	0.1%	1.0%	100.0%	

退院患者統計

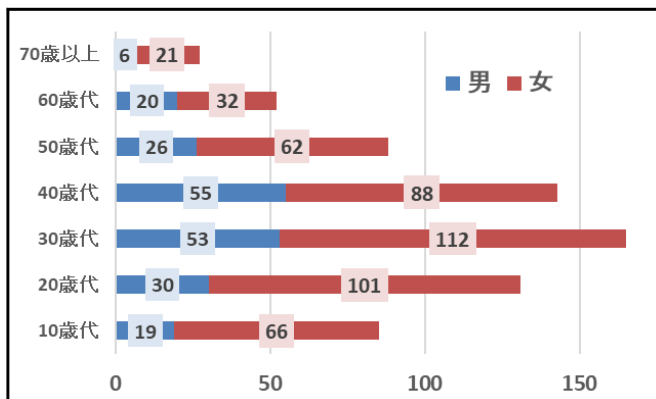
1 年度別退院患者数

年度別の退院者数はここ数年は 600 人前後であったが、平成 29 年度は 691 人と前々年度の 583 に比べて 100 人近くの増加。平成 16 年度の 683 人に並ぶ数字である。これは入院者数が増加しているからであるが、入院者が増加した要因は何であろうか。当院では、長期入院者の退院支援も積極的に行っている。退院後に、早期の再入院にならないように、必要によっては、デイケア通所や訪問看護を取り入れている。また、治療契約を結んでいる患者(通院中の患者)には電話サポート体制を整えている。



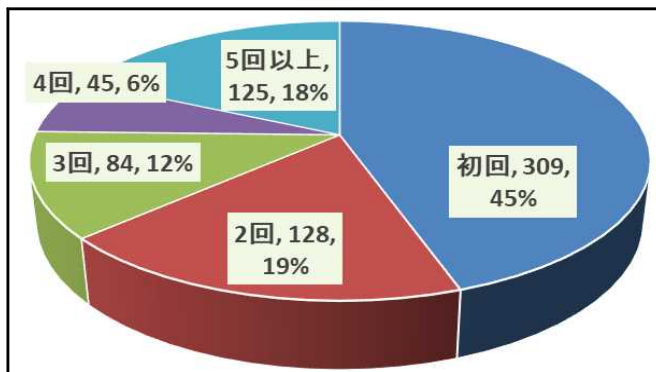
2 年齢・年代別・性別退院患者数

年齢は 12 歳～ 81 歳、平均年齢 38.8 歳であり、年齢層は昨年よりも若干年齢がさがった。年代別では 20 歳代～ 40 歳代が多く、この年代で 6 割を占める。10 歳代は 85 人(12.3%) と前年と同様である。70 歳以上は 31 人 (4.5%) と昨年と同様である。性別では女性が 2/3 を占める。年代別では 10 歳～ 30 歳代での女性比率が高い。



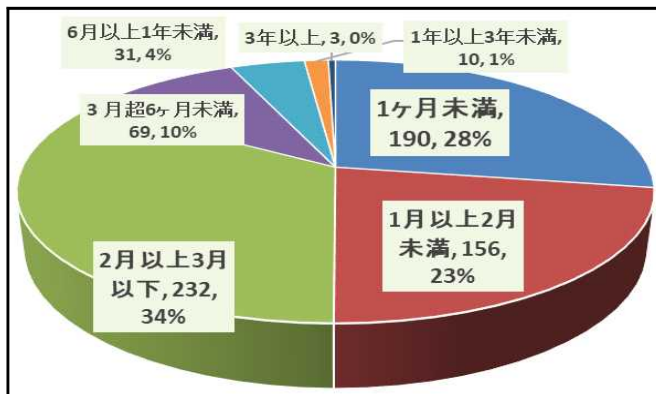
3 入院回数

1～26回、平均入院回数 2.9 回である。初回入院者は 309 人 (44.7%) である。再入院のうち、2 回が 128 人 (18.5%) であった。3 回が 84 人 (12.2%)、5 回以上は 125 人(18.1%)。10 回以上の入院者は 26 人(3.8%) であった。20 回以上の入院者は 4 人 (重複含む) であるが、実人数は 3 人で診断名は統合失調症、双極性感情障害である。



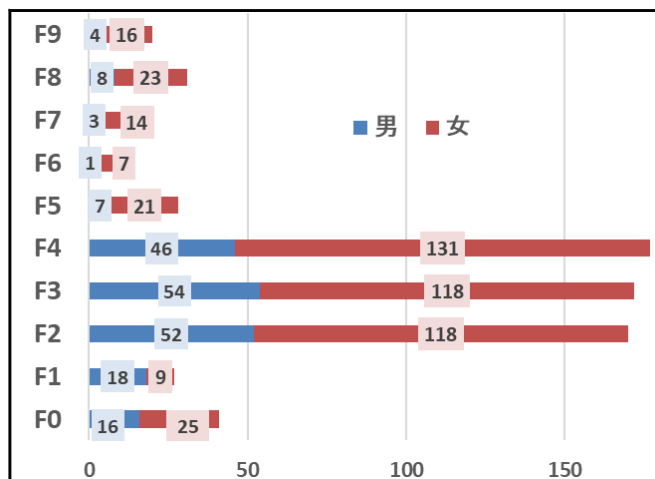
4 入院期間

1～2,786 日、平均 80.8 日、これは前年の 121.4 日より大幅な短縮である。期間別では 1 ヶ月未満が 190 人 (27.5%)、1 ヶ月以上 2 ヶ月未満が 156 人 (22.6%)、2 ヶ月以上 3 ヶ月未満が 232 人 (33.6%) であった。3 ヶ月未満の退院が 83.6%、6 ヶ月未満が 93.6%、1 年未満が 98.1% である。1 年以上は 13 人、3 年以上は 3 人であった。



5 退院時診断

F4（神経症圏）は 177 人（25.6 %）、次いで F3（気分障害）172 人（24.9%）、F2（統合失調症圏）が 170 人（24.6 %）であるが、ほぼ同数である。F1（アルコール依存症等）は 27 人（3.9%）、F6（パーソナリティ障害）8 人（1.2%）と少ない。F5（摂食障害等）は 28 人（4.1%）と上昇。F0（認知症・器質性）は 41 人（5.9%）である。F8（発達障害）は 31 人（4.5%）と減少しているが、発達障害が減っているというのではなく、基礎疾患として他の診断名となっているためである。



6 入院および退院した病棟

319 人（46.2 %）と半数は 5 病棟からの退院である。2 病棟入院後に 5 病棟に転棟して退院したのは 40 人であった。急性期はまずは 2 病棟に入院（48.8%）し、安定してさらなる治療モチベーションがあれば 5 病棟、1 病棟の開放病棟転に転棟している。2 病棟からの退院は 206 人（29.8 %）で、1 病棟からも 117 人（16.9%）が退院している。1 病棟からの退院者は、72 人が 2 病棟入院、10 人が 5 病棟入院後に 1 病棟からの退院である。3 病棟からは 49 人（7.1%）の退院であった。

入院した病棟	退院した病棟					%
	1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	総計	
1病棟	29	1	2	7	39	5.6%
2病棟	72	196	29	40	337	48.8%
3病棟	6		16		22	3.2%
5病棟	10	9	2	272	293	42.4%
総計	117	206	49	319	691	100.0%
%	16.9%	29.8%	7.1%	46.2%	100.0%	

7 退院者の入院時および退院時の入院形態

入院時の入院形態は任意入院が 511 人（74.0）を占め、171 人（24.7 %）が医療保護入院である。退院時に医療保護入院は 75 人（10.9%）である。医療保護入院での入院者の半数以上 104 人（60.8%）が任意で退院となっている。本人の主体的な治療意欲がないと病状の改善も得られない。極力、任意入院では治療が望ましい。措置入院者は 0 名、応急入院は 2 名。札幌市は措置入院を抑えているのか、措置入院の申請をしても却下されることが多い。鑑定入院は 7 人であった。全て中島が担当している。

入院時形態	退院時入院形態				%
	任意入院	医療保護入院	鑑定入院	総計	
任意入院	505	6		511	74.0%
医保入院	104	67		171	24.7%
応急入院		2		2	0.3%
鑑定入院			7	7	1.0%
総計	609	75	7	691	100.0%
%	88.1%	10.9%	1.0%	100.0%	

8 転帰

転院して入院したのが、26 人である。精神科での継続治療が 3 人、その他は身体合併症治療のために、勤医協中央病院、北海道医療センター、札幌市立病院、東徳洲会病院（敬称略）である。病病連携が重要である。

平成 29 年度 **退院時満足度調査**

1 対象

平成 29 年 1 月～ 12 月までの退院者 691 人中、退院時に満足度調査の回答が得られた 471 人 (68.2%)を対象に分析を行った。回収率は前年度の 59.2%よりも上がっている。目標は 80%である。2 病棟の回収率が前年度よりも上がっている。急性期の患者が多い割に健闘している。逆に、療養病棟の 1 病棟、3 病棟の数値が低い。もっと上がるはずである。満足度調査の必要性を理解し、信頼性確保のためには回収率を上げる必要がある。

対象者の基礎データ 471 人、12～81 歳（平均 39.2 歳）男=136(28.9%)、女=335(71.1%)。入院期間 21459 日（平均 78.5 日）。入院回数 1～25 回（平均 3.0 回）
F3（気分障害圏）が最多の 27.4%を占める。F2（統合失調症圏）は 26.1%、F4（神経症圏）の 25.7%の順である。入院時の入院形態は 7 割が任意入院で医療保護入院は 3 割弱である。応急入院が 2 人、措置入院者はゼロであった。退院時の退院形態は、任意が 89.6%と 9 割を占めている。

2 方法

1. 入院治療についての全体的満足度 CSQ-8J (Client Satisfaction Questionnaire)
2. 入院に際する説明、入院中の治療に対する説明
3. 医師・看護婦などのスタッフに対する評価
4. 入院生活の快適さ
5. 家族の評価 等の調査を行っている。

CSQ-8J	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	割合	総計
1 治療の質	11	116	197	131	328	72.1%	455
2 望んだ治療か	12	57	262	121	383	84.7%	452
3 必要としたか	15	117	220	95	315	70.5%	447
4 推薦するか	15	37	299	87	386	88.1%	438
5 時間をかけた援助	13	78	216	139	355	79.6%	446
6 効果的な対処	8	23	254	157	411	93.0%	442
7 全体の満足	13	53	240	138	378	85.1%	444
8 治療に戻るか	17	63	251	100	351	81.4%	431
スタッフ評価	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	割合	総計
9 事務員の応対	13	73	210	150	360	80.7%	446
10 看護婦	10	67	167	207	374	82.9%	451
11 医師	18	87	164	179	343	76.6%	448
12 他のスタッフ	5	48	176	219	395	88.2%	448
説明・環境等	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	割合	総計
13 入院の説明	13	32	197	186	383	89.5%	428
14 入院中の説明	15	41	197	153	350	86.2%	406
15 入院生活の快適さ	38	130	157	98	255	60.3%	423
16a 病室の広さ	22	73	278	54	332	77.8%	427
16b 廊下幅	10	64	279	73	352	82.6%	426
16c テイルーム	10	71	265	76	341	80.8%	422
16d 作業療法室	45	85	229	50	279	68.2%	409
16e 壁の色	3	70	278	66	344	82.5%	417
16f 緑の多さ	31	156	155	77	232	55.4%	419
16g 臭い	22	97	200	106	306	72.0%	425
16h 清潔度	11	82	205	126	331	78.1%	424
17 医療費	26	97	242	25	267	68.5%	390
家族の評価	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	割合	総計
21 入院説明	3	7	99	186	285	96.6%	295
22 入院中の説明	7	38	130	115	245	84.5%	290
23 事務員	3	54	149	94	243	81.0%	300
24 看護婦	6	42	131	119	250	83.9%	298
25 医師	5	47	129	116	245	82.5%	297
26 他のスタッフ	1	32	141	117	258	88.7%	291
27 医療費	10	83	181	8	189	67.0%	282
28 全体の満足	5	20	162	108	270	91.5%	295

臨床治験について

治験とは国から薬として承認を受けるために行う臨床試験のことです。

治験では、新しく開発された薬の人での有効性（効き目）や安全性（副作用）などを確認します。現在、世界中で数多くの薬が使われていますが未だに有効な治療薬がない病気も多くあります。これらの病気に対しては効果のある新しい薬の開発が必要です。そのため世界中で新しい医薬品の開発を目指して治験が行われています。当院では積極的に治験に取り組み、新たな薬剤開発に協力しています。

治験審査委員会（IRB）は毎月第3金曜日に開催し、治験内容について審議しています。

IRB審議内容

1. 開催日時：2017年12月15日（金）12：00～

2. 場所：医療法人社団 五稜会病院 医局

出席者：坂岡 ウメ子、中山 誠、藤井 英介、吉野 賀寿美、古瀬 諒二、田中 倉一、井出 瑞門
泉 純一、阿部 重子

3. 審議・報告内容

1. 塩野義製薬株式会社より依頼

（治験実施施設：五稜会病院）

* 「デュロキセチン塩酸塩の児童思春期うつ病患者を対象とした第3 相臨床試験-プラセボに対する優越性試験-【1701A3631】」

* 「デュロキセチン塩酸塩の児童思春期うつ病患者を対象とした第3 相臨床試験-継続長期投与試験-【1701A3632】」

審議事項：治験実施の可否

2. 大日本住友製薬株式会社より依頼

（治験実施施設：五稜会病院）

* 「SM-13496 の急性憎悪期の統合失調症患者を対象としたプラセボ対照二重盲検並行群間比較による検証的試験【D1001066】」

* 「SM-13496 の統合失調症患者を対象とした非盲検継続投与試験【D1001067】」

審議事項：安全性情報

3. 大日本住友製薬株式会社より依頼

（治験実施施設：五稜会病院）

* 「日本人統合失調症患者を対象とした SEP-363856 の第I相試験」

審議事項：治験分担医師追加

4. 塩野義製薬株式会社より依頼

* 「S-877503 の成人注意欠如・多動症患者を対象とした第3 相臨床試験(継続長期投与試験【1523A3133】」

（治験実施施設：五稜会病院、宇都宮東口ストレスクリニック、森林公園メンタルクリニック、桑園メンタルクリニック、北大通こころのクリニック）

審議事項：安全性情報、治験薬概要書改定

5. Meiji Seika ファルマ株式会社より依頼

（治験実施施設：五稜会病院）

* 「ME2112 の急性憎悪期統合失調症患者を対象としたプラセボ対照二重盲検比較による検証的試験（第Ⅲ相）【ME2112-2】」

* 「ME2112 の統合失調症患者を対象とした長期投与試験（第Ⅲ相）【ME2112-3】」

審議事項：安全性情報